

■村松梢風 小説家。実証的な手法に裏付けられた評伝作品に、卓越した腕をふるった。猫好きでは、大仏次郎と双璧。

むらまつしょうふう

帝国憲法発布1889＝

静岡県周智郡飯田村で、生まれる。

祖父に利殖の才があって村一番の金持ちになっていたが、父と自分の代で殆ど蕩尽してしまう。

日清戦争始・1894＝ 5歳：

子規句歌革新1898＝ 9歳：

日露戦争終・1905＝16歳：

韓国反日暴動1907＝18歳：静岡中学を卒業し、慶應義塾大学経済学部理財科に入学するが、父が死去したため中退、静岡に戻り教師となる。近隣の村の娘と結婚し、翌年同文学部に再入学するが、吉原などで遊蕩三昧を尽くしたため再び中退、幾つか職を転々とするがいずれもモノにはならず、ついには実家から金を持ち出すこともできなくなり、毎朝早くに起きて道端に落ちている金を拾ったりして生活。

明治天皇没・1912＝23歳：

文学に憧れてはいたものの、自分が文筆で身を立てるのは到底実現できないと思っていたが、

民本主義・・1916＝27歳：

ロシア革命・1917＝28歳：*ダメ元で、「琴姫物語」を{中央公論}に応募したところ、滝田樗陰に認められデビュー、処女作となる。うらぶれた気持ちで街を歩いている時、木々の梢を冬の風が吹き抜けるのを見て、梢風の号を用い始め、以後、文筆活動に専念、次々と作品を発表するが、自ら"情話"と称するもので、同誌の創作欄ではなく、説苑欄という中間小説・読み物を載せる欄に掲載され、新進の流行作家であった佐藤春夫が芥川龍之介らと語らって、排斥運動を起こし、剛腹な樗陰も、屈せざるを得ず、絵が好きな梢風のために、「本朝画人伝」を企画してくれるが、

原敬首相暗殺1921＝32歳：

関東大震災・1923＝34歳：上海に渡航、その魅力にとりこになって滞在。ロシア人が経営するアパートに住み、ドイツ人やフランス人がいて、ヨーロッパ文化にも触れ、郭沫若・郁達夫・田漢ら中国の若い知識人たちと知り合って飛躍、

護憲三派圧勝1924＝35歳：

治安維持法・1925＝36歳：

円本時代始・1926＝37歳：

共産党事件・1928＝39歳：

満州事変・・1931＝42歳：

上海を舞台とした作品「魔都」を発表。以後もたびたび中国を訪問し、「支那通」として有名となる。滝田樗陰が死去すると、*個人雑誌{騒人}を創刊。以後3年、「正伝清水次郎長」連載、その他の考証的伝記風作品を多く執筆。亡命してきた郭沫若を匿い、市川に居住させるが、同年の、日本による中国への出兵"済南事件"を自らが支持したことで、ながらく友情関係がつづいていた田漢とは、決裂。

その後、戦前は多くの時代小説等を執筆。

帝人疑獄事件1934＝45歳：

芥川直木賞始1935＝46歳：

_"東洋のマタ・ハリ"と呼ばれた清朝王女川島芳子を取材し、小説「男装の麗人」を発表、

日中戦争始・1937＝48歳：

*明治期の歌舞伎俳優二代目尾上菊之助を描いた「残菊物語」は、溝口健二以降、三度映画化され、舞台でもしばしば上演され、代表作となる。

大政翼賛会・1940＝51歳：

日米開戦・・1941＝52歳：

以後4年、_樗陰の企画を実現すべく、文献資料に加え、自分の足で直接取材して「本朝画人伝」を連載。

敗戦・・・1945＝56歳：

戦後も、多くの時代小説や伝記小説を執筆・連載、

極東裁判決・1948＝59歳：

戦前の小説「男装の麗人」で川島芳子のスパイ行為をことさら誇張して描いたため、芳子が漢奸裁判にかけられた際に小説が証拠として扱われ、この年の銃殺刑に追い込んだという批判もある。

独立回復・・1951＝62歳：

メデー事件・1952＝63歳：

_克明な人物伝として評価が高い代表作「近世名勝負物語」の連載を始め、

晩年は妻と別居し、愛人と2鎌倉に住んでいた。その経緯は孫村松友視の著書「鎌倉のおばさん」に詳しい。

インスタントメン・1958＝69歳：

_代表作「女経」など、実証的な手法に裏付けられた評伝作品に、卓越した腕をふるった。

安保闘争・・1960＝71歳：

タイタイ病始・1961＝72歳：

*「近世名勝負物語」連載続けるなか、没した。